

博物館に
行ってみよう!



ケイヨウキンこうえケイヨウインコ

もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第13回

千葉県立関宿城博物館(野田市)



インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

千葉県の河川と産業、人の暮らしとの 関係を楽しみながら学べる博物館

千葉県立関宿城博物館は、「河川とそれにかかわる産業」をテーマに、河川改修や水運の歴史を紹介しながら、川と流域の人々との関わりについての資料を展示しています。また、近世から近代にかけて高瀬船や通運丸が往来して賑わった関宿、関宿城や関宿藩の歴史についても併せて展示、紹介しています。

関宿城博物館は千葉県の最北端に位置し、利根川と江戸川の分流点となっているスーパー堤防上に建てられています。博物館の象徴であり、遠くからもその白壁の美しい姿が望める天守閣部分は、かつての関宿城を古い記録にもとづいて再現したものです。実際の関宿城跡は500m離れた場所にあり、天守閣の展望台からもその場所を眺めることができます。

関宿城博物館がとてもユニークなのは、展示の大きなテーマとして、河川と自然、ここで暮らし働く人々の苦労と知恵の紹介に力を注いでいる点です。川は、千葉県の歴史を理解するためにとても重要な存在で、千葉県の繁栄がいかに川に頼ってきたかということが展示物を通して印象的に、そして楽しく理解できるようになっています。

同時に千葉県の歴史は「水との戦い」の歴史でもあり、展示を通して昔の人が苦労しながら築いた防災の知恵や工夫から多くのことを学ぶこともできます。

私は、来館者の中でも特に小学生に館内をご案内することが多いのですが、川の実在や昔の人々の知恵と工夫をいかに分かりやすく伝え、興味を持ってもらえるかという点を大切にしています。みなさんもぜひ、川と人間の、素晴らしい知恵にあふれた関係を観に、当館にいらっしやっただければ幸いです。



千葉県立関宿城博物館
主任上席研究員 小倉 久宜さん

千葉県立関宿城博物館とは？



千葉県立関宿城博物館の開館は平成7年。利根川と江戸川に挟まれた野田市関宿のスーパー堤防上に建てられました。展示テーマは「河川とそれにかかわる産業」。

利根川流域に生きる人々の生活の歴史を分かりやすく紹介しています。「房総の河川」・「河川交通と伝統産業」を紹介した常設展示に加え、近世の関宿藩についても多くの展示があります。

高瀬船

江戸時代、利根川水運の主役となったのが、高瀬船とよばれる川船でした。船の長さは最大のもので約30mあり、約1,300俵の米俵を積むことができました。



江戸時代から近現代まで、河川と産業、河川と暮らしの姿を紹介

常設展示は、「房総の河川」と「河川交通と伝統産業」をテーマに3つの展示室に分かれています。原寸で再現された家屋や大型模型、細密なジオラマ模型が展示され、当時の様子、そして私たちが暮らす千葉県がどのように発展し、流域の人々がどのように暮らしてきたのかが分かりやすく理解できる工夫がされています。

例えば、河川を物流というこれまでと少し違った視点を持って観ていくことで、江戸で何が必要とされ、川を活用することで千葉県がどのようにして現在の姿に至ったのかが理解できるようになります。そして、時に恐ろしい表情を見せる河川と人がどのように付き合ってきたのか、昔の人々の工夫、知恵を知ることで防災の意識も学ぶことができます。

また、常設展示の他にも、この地域の歴史を学べる企画展示室、360度の絶景を楽しめる展望室など多くの見どころがあります。

第2展示室

第2展示室のテーマは「房総の河川 近世の利根川・江戸川」。江戸時代に行われた、利根川の東遷（とうせん）（東へと流れを移し変える大工事）などの歴史的な河川改修の姿や、手賀沼、印旛沼の干拓などの様子を多くの模型で紹介しています。



▲利根川の東遷。江戸時代に行われた、利根川の流れを東に移す大規模な河川改修事業の様子。



▲中下流における護岸水制工事。壊れた堤防を直す工事の様子の模型。

企画展示室

関宿藩や関宿に関する展示を行っています。関宿藩の歴史や、関宿城の普請・解体に関する資料、老中を輩出した藩主、久世氏の資料などを展示しています。

企画展開催中はテーマに沿った展示をしています。



●問い合わせ／千葉県立関宿城博物館

野田市関宿三軒家143-4
TEL.04-7196-1400

第1展示室

第1展示室のテーマは「房総の河川 近現代の利根川・江戸川」。明治時代以降に行われた利根川流域での河川改修工事や利根運河の開削の姿などを観ることができます。洪水に対する人々の知恵から生まれた「水塚」の工夫の見事さに多くの来館者が驚かれます。



▲水塚カット模型。洪水になった時に避難するための小屋で、高い所に作られます。



▲関宿水閘門（すいこうもん）模型。川の水量を調節し、船の航行を助けるために設置されました。

第3展示室

第3展示室のテーマは「河川交通と伝統産業」。利根川水運の主役として活躍した、高瀬船の大型模型が中央に設置され、両脇に旅籠と蔵の建物も再現されています。近世から近現代にかけての利根川水運の推移や、河川的发展とともに育まれた文化、民俗も紹介しています。



▲通運丸（模型）。明治時代になると、利根川・江戸川に蒸気船が就航するようになりました。



▲近世境河岸の賑わい模型。河岸には、たくさんの人や物が集まり、とても賑わっていました。

展望室

博物館の天守閣は、3層4階建てになっていて、スーパー堤防上にひときわ高くそびえています。快晴の日には、4階にある展望室から、利根川・江戸川の流れをはじめ、筑波山、日光連山、富士山など関東平野を取り巻く山並みの絶景を楽しむことができます。



すごい!このホンモノを見逃すな!

利根川図志

江戸時代後期、利根川の東遷や江戸川の開削などに伴う水運の発達により、利根川流域は河岸が大変賑わいました。そこでは、物資の流通だけでなくさまざまな文化の交流も行われていました。

そのような環境の中、赤松宗旦は、河岸場として栄えていた下総国布川村で医業を営みながら『利根川図志』を執筆し、安政5年(1858)に初版本が出版されました。

『利根川図志』は全6巻からなり、利根川にまつわる自然・地理・歴史・伝承などを現地の見聞と過去の文献に基づき、挿絵付でまとめたものです。地誌として、紀行文として、あるいは百科事典として当時を知るうえで大変貴重な資料です。

下の図は第1巻の凡例に添付されている



利根川全図の一部です。川俣から栗橋を経て関宿城周辺に至る利根川中流域を描いています。中田(現在の古河市)から利根川は権現堂川と赤堀川に分かれ、利根川本流は関宿城の北を流れ、支流は江戸川として江戸市中に流入している様子が詳細に記されています。



イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています

千葉県立関宿城博物館では、たくさんのイベントやセミナーが開催され、多くの方が参加されています。過去にはこんなイベントも開催されました。



【体験教室「関宿城下を歩こう(城下町コース)」】

千葉県立関宿城博物館の周辺にある史跡(関宿城本丸跡、筋違い十字路、外堀・土塁跡、関宿関所跡石碑、随庵堀と随庵や寺院)を徒歩でめぐります。当館の学芸員が案内し、解説します。



【楽しい古文書】

昔の文字(古文書)に親しむ体験です。くずし字の「ひらがな」を中心に、昔の文字を読んだり、筆ペンを使って半紙に文字を書いたりする体験を行いました。小学生から一般の方まで多くの方が参加されました。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第13回をご覧ください。



千葉県立関宿城博物館があり、利根川と江戸川に挟まれた場所にある、従来の堤防よりも幅を広げた高規格の堤防は何と呼ばれているでしょうか。

次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① ウルトラ堤防
- ② スーパー堤防
- ③ ハイパー堤防

取材協力・撮影協力・写真提供／千葉県立関宿城博物館

プラスαで、未来とともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



2026.1
(次回発行予定/
2026年2月20日)

正解は→② スーパー堤防